

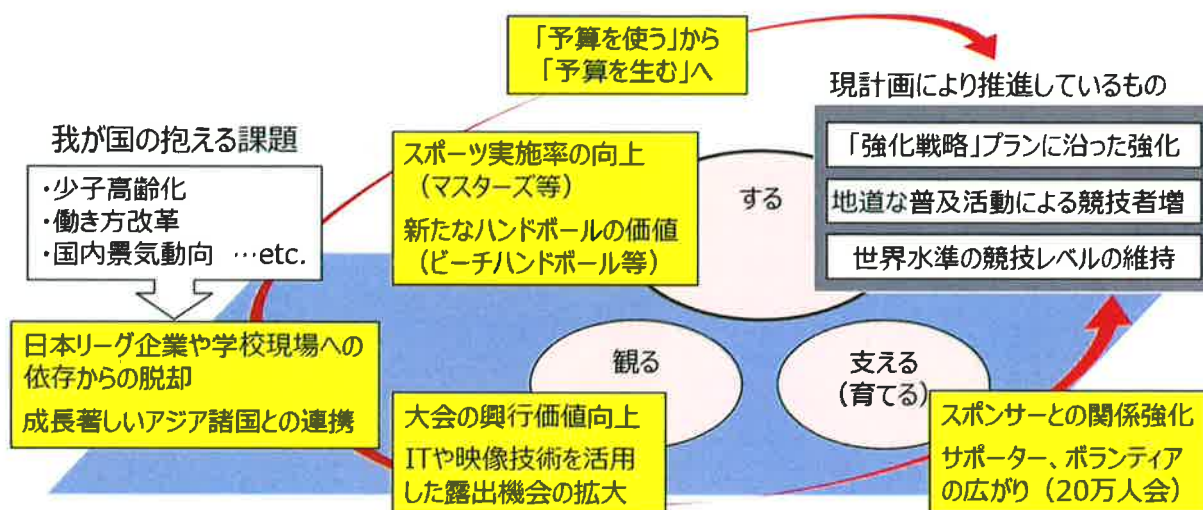
# 2019年度 事業計画

公益財団法人 日本ハンドボール協会

# I. 基本的な運営方針

## 1. 基本的考え方

- ◆ 2018年度は「世界でメダルを取る アジアの盟主となる」のスローガンの下、主に競技力強化に重点を置いて事業計画を策定した。
- ◆ 2019年度はこれをベースに、我が国のスポーツ政策の基本的方向性を示す「スポーツ立国戦略」に沿った取り組みや、現在抱えている課題への対応を加え、ポスト2020を見据えた将来構想を示すものである。



## 2. スポーツの成長産業化のための「三本の矢」

ポスト2020を見据えた成長産業化のため「ハンドボール×ビジネス」「ハンドボール×テクノロジー」「ハンドボール×エンターテイメント」をキーワードとし、実現に向けた施策を各事業計画に反映させる。

	HB×ビジネス	HB×テクノロジー	HB×エンターテイメント
目的	◆ ビジネス界のトレンドを導入し、収益性・効率性を高める	◆ 最先端の技術を取り込み、ハンドボールの価値を高める	◆ 「競技会」からの脱却を図り、競技経験者以外からのファン層拡大を図る
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 事務局体制の強化</li> <li>➢ マーケティング収入の増強</li> <li>➢ 非効率業務の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 新しい観戦スタイルの提供</li> <li>➢ オープン・イノベーションの可能性追求</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 露出強化</li> <li>➢ 顧客満足度の向上</li> <li>➢ 支援組織の再編成</li> </ul>

## II.事業内容

### 1. 競技力向上(強化)に関する事業

《強化》

#### 【基本方針】

2019年女子世界選手権・2020年東京オリンピックに向け、世界基準のフィジカル強化・戦術の習得・技術の習得・メンタルの強化・人間力の強化などを図り、強化の恒久的なシステムの構築を推進する。また、システムを充実させるための強化スタッフの育成に努める。(国際レベルの指導者育成を図る。)

#### 【実施計画】

<男子代表>

- 1) 強化合宿
- 2) 欧州遠征A(4月)、欧州遠征B(10月)、欧州遠征C(12月～1月)
- 3) 日韓定期戦(6月 立飛アリーナ) ※韓国と日程調整中
- 4) 国際強化試合(JAPAN-CUP 招聘国交渉中 6月20～22日 立飛アリーナ)
- 5) 男子アジア選手権(2020年1月 会期・開催地未定)

<女子代表>

- 1) 強化合宿
- 2) 欧州遠征A(5月～6月)、欧州遠征B(7月～9月初)、欧州遠征C(9月)  
欧州遠征D(10月～11月)
- 3) 日韓定期戦(6月 立飛アリーナ) ※韓国と日程調整中
- 4) 国際強化試合(おりひめトライアルゲームズ 6月14日～16日 熊本県立総合体育館、  
JAPAN CUP 11月21～24日 代々木体育館)
- 5) 女子世界選手権(11月30日～12月15日 パークドーム熊本・アクアドーム熊本・  
熊本県立総合体育館・山鹿市総合体育館・八代市総合体育館)

<男子アンダーカテゴリー>

- 1) 強化合宿
- 2) ジュニア世界選手権(7月15日～28日 スペイン)
- 3) ユース世界選手権(8月5日～18日 マケドニア)

<女子アンダーカテゴリー>

- 1) 強化合宿
- 2) ジュニアアジア選手権(7月20日～27日 レバノン)
- 3) ユースアジア選手権(8月17日～27日 インド)

《強化委員会》

#### 【基本方針】

世界基準及び国際的な競争力に関する情報を収集して、強化活動における様々な問題点を整理し、課題克服に関する施策展開(案)を立案し推進していく。

### 【実施計画】

- 1) 強化委員会(4回/年)
- 2) テクニカルレポート作成(指導委員会&情報科学専門委員会と協働・世界選手権後)  
《強化部会(アンダー強化部会)》

### 【基本方針】

世界基準及び国際的な競争力に関する情報を収集して、アンダー代表強化活動におけるチーム間での情報共有を図るとともに統一性を持った指導体制の構築を図る。

### 【実施計画】

- 1) 強化部会(2回/年)
- 2) 強化現場視察(4回/年)※フル代表・アンダー代表

《情報科学専門委員会》

### 【基本方針】

- 1) ナショナルチームが活用するための情報(日本ナショナルチーム及び各国の分析)を提供する。  
ナショナルチームの活動における継続的な分析や情報を蓄積するとともに、ナショナルチームの客観的な評価(人的および活動の方向性)の材料とする。
- 2) 調査研究(特殊分析)を実施し、選手へのフィードバックによる個人戦術向上及び強化指針の作成に活用する。

### 【実施計画】

- 1) 国際情報収集  
強豪国、対戦国等に関する情報収集・管理を行う。  
⇒国際大会の視察、インターネットによる情報収集(各大会)
- 2) ゲーム分析&スカウティング  
ゲーム分析&スカウティングのノウハウ共有(監督・コーチ・選手、全カテゴリー)を図る。  
⇒全カテゴリーでのサポート活動(合宿または大会)
- 3) ツールの開発  
情報分析に関する最新テクノロジーの開発を図る。  
⇒現在すでに運用、JISS、大学指導者(研究者含む)とのさらなる連携
- 4) データベースの活用と質的向上  
JISS nx の活用と質的向上を図る。
- 5) 他競技における球技系サポート  
他競技におけるゲーム分析システム、スカウティングやツールの活用方法を調査する。  
⇒現在すでに運用、JISS、大学指導者(研究者含む)とのさらなる連携

《体力科学専門委員会》

### 【基本方針】

国内外選手の体格・体力の情報を収集し分析することで、世界水準のフィジカル・ストレングスレベルを可能とする強化システム構築をサポートする。

関連委員会との連携のもと、特に国内若手選手の体格・体力測定を連続的に実施することで、発達過程の把握、体力基準作成、さらに傷害予防システムに寄与するデータ作成と提供を推進する。

#### 【実施計画】

- 1) NTS ブロックトレーニング 体力測定の実施と集計(8月)  
⇒ NTS 委員会と連携協力
- 2) ジャパンライジングスタープロジェクト(3期生) 地方測定会への協力(9月～11月)  
⇒ 発掘委員会と連携協力
- 3) NTS ブロックトレーニング体力測定 結果検討会議および内容策定会議(10月)
- 4) NTA(アカデミー)トレーニングにおける体力測定(9月～12月)
- 5) ジャパンライジングスタープロジェクト(3期生)トレーニングへの協力(12月～3月)
- 6) NTS ブロックトレーニング体力測定 次年度実施内容および評価基準決定(2月)
- 7) ジャパンライジングスタープロジェクト(3期生) 結果検討会議および内容策定会議、次年度実施内容および評価基準決定(3月)
- 8) 代表チーム・各カテゴリー代表チーム・N アカデミー体力測定(時期未定;強化スタッフと連携し適宜実施)

#### 《医事専門委員会》

##### 【基本方針】

各関係部署と連携して下記の内容を円滑に話し合い実施する

##### 【実施計画】

- 1) アンチ・ドーピング活動
  - (ア) JADAと協議しドーピング検査(競技会検査)を計画する
  - (イ) 競技会検査にNFRの派遣を行う
  - (ウ) アンチ・ドーピング啓発活動を行う
    - ⇒ 各カテゴリー代表選手およびスタッフへe-learning(ADeL)の実施を依頼する
    - ⇒ 各カテゴリー代表合宿時に講習を行う(可能な限り年度初回の合宿時)
    - ⇒ 全国大会規模の大会でアンチ・ドーピング啓発活動ブースの設置を行い、ハンドボール関係者に対し意識向上を促す
- 2) 医師の派遣
  - (ア) 各カテゴリー代表チームの海外派遣時の帯同および事前合宿でのメディカルチェック活動を行う
  - (イ) 国内大会(要請時、必要時)にマッチドクターの派遣を行う
- 3) メディカルチェック事業
  - (ア) おりひめジャパンフィジカルクリニックを実施する
  - (イ) 各カテゴリー代表チームでのメディカルチェック活動を行う
  - (ウ) 栄養部門にて食育活動を行う(各カテゴリー・NTS・アカデミー等へ管理栄養士の派遣)
  - (エ) 歯科部門にて健診およびマウスピースの作成を行う
  - (オ) トレーナー部会と連携しメディカルスタッフ育成を行う

(カ) NTS発掘育成運営委員会への参加、実施プログラムの立案支援を行う

#### 4) 安全管理

(ア) ホームページにハンドボールに関連する傷害／外傷のコンテンツを充実させる

(イ) 全国のブロックに医事およびアンチ／ドーピング関連の部署／責任者を設置／任命を依頼して組織の改編を行う

#### 《トレーナー部会》

##### 【基本方針】

1) トレーナーの技術/知識向上のための研修・育成システムの実施(1月)

2) ハンドボール強化および発掘・育成活動への積極的貢献(通年)

3) ドクター群との連携による各種支援活動の拡大

##### 【実施計画】

1) トレーナースタッフ育成

(ア) 部会登録メンバーへの研修制度の確立・実施(6月～)

(イ) メディカルガイドラインのインストール(ドクター部会と連携)(6月～)

(ウ) 男女トップカテゴリーでの若手トレーナーの育成(年間)

(エ) 競技スキル向上・傷害予防のための基礎的動作スキルプログラム「BASIC7」「BASIC7 PLUS」のアップデートおよび開発とトレーナーへの周知

2) 強化・育成活動への貢献

(ア) 日本体育協会 AT 講習への継続派遣(4月)

(イ) 各カテゴリーへの質の高いトレーナー派遣(年間)

(ウ) NTS・NTA へのトレーナー派遣と「BASIC7」「BASIC7 PLUS」の継続実施/NTS トレーニング内容との連携

(エ) おりひめフィジカルクリニックの継続実施(5～6月)

(オ) 全日本大学インカレへのトレーナーブースの設置(11月)

3) 各種支援活動の拡大

(ア) NTS 内容策定委員会、運営委員会への参加と実施プログラムの立案支援(年間)

(イ) 医事委員会傷害予防プログラムの構築支援(継続)

(ウ) コンディショニングアプリ ONETAP の機能向上と利用促進によるデータ集積・分析

## 2. 指導・普及に関する事業

### 《指導部》

#### 《指導委員会》

##### 【基本方針】

日本スポーツ協会(以下、JSPO)の指導者制度改定(2019年度予定)と連動して、ハンドボール協会としての指導者養成システムの構築を目指す。そのために、国内外からの情報収集を積極的に行い、分析した知見や講習会の内容を蓄積していく。

- 1) その内容を精査して指導者講習会に活用していくとともに、公認コーチ養成講習会におけるカリキュラム及び講義内容の精査を行う。
- 2) 各都道府県およびブロックにおける指導者養成の意識を高め、指導者講習会が計画的に実施されるよう促すとともに、連絡網を整備し、組織強化を狙う。
- 3) 指導者が身につけておくべき知識をまとめたハンドボール指導教本の作成を最重要課題とする。

##### 【実施計画】

- 1) トップコーチセミナー(5月)
- 2) JSPO 公認指導者資格<コーチ3>養成講習会[JSPO 委託事業](6月)
- 3) IHFコーチシンポジウム(12月)
- 4) 指導委員会中央会議(12月)
- 5) 指導海外派遣事業(1月)
- 6) JSPO 公認指導者資格<免除適応コース>検定試験(2月)
- 7) 競技別指導者養成講習会[JSPO 委託事業](2月)
- 8) 指導委員会全国研修会(2月)
- 9) 指導教本プロジェクト(6、2月)
- 10) 運動部活動指導手引き書作成、Throw Off 2020 作成、熊本WCデータ記録集作成
- 11) 指導委員会HPリニューアル

### 《育成部》

#### 《育成委員会》

##### 【基本方針】

小・中学生におけるハンドボール環境をより一層充実させるために、一貫指導システム等の更なる拡充・発展を目指すとともに、2020年以降の日本ハンドボール界を見据えた選手育成方策について、具体的な事業展開を施行していく。

##### 【実施計画】

- 1) 小学生専門委員会(5、10、2月)
- 2) 一貫指導伝達講習会(8月)
- 3) 全国U-12指導者研修会(10月)
- 4) 日韓小学生親善交流事業(8月)
- 5) ブロック普及指導者養成講習会[大崎財団助成事業](9回/年)

- 6) ブロック小学生大会助成事業(9ブロック)
- 7) 中学生専門委員会(8、12、3月)
- 8) J級指導者資格養成事業(年間)

## 《普及部》

### 《普及委員会》

#### 【基本方針】

東京オリンピック以降のハンドボール文化構築を見据えたハンドボール普及活動に取り組む。

- 1) 学校授業におけるハンドボール指導の実践研究に取り組む。
- 2) ハンドボールを生涯スポーツとして取り組む環境を整備する。
- 3) 日本代表レベル選手のキャリア育成の仕方について現状課題を把握するとともに、女子チーム指導者が女性アスリートの心身の特性について理解を深める。
- 4) ビーチハンドボールおよび車椅子ハンドボールの組織強化・拡充および普及発展の具体的方策を探る。

#### 【実施計画】

- 1) ハンドボール研究集会(学校体育、8月)
- 2) ハンドボール授業実践研修会(学校体育、2月)
- 3) 授業実践校研究委託(学校体育、6校)
- 4) 学校体育専門委員会(学校体育、4月、8月、12月)
- 5) マスターズ専門委員会(マスターズ、4月、3月)
- 6) キャリアサポート事業(キャリアサポート、8月)
- 7) ビーチ専門委員会(ビーチ、8月)

## 《発掘部》

### 《発掘委員会》

#### 【基本方針】

ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト(以下、JRSP)において、2024・2028に活躍が期待される将来性豊かなタレントを発掘育成すること、ならびに National Talent Identification and Development (以下、NTID)において、形態的に優れた即戦力タレント候補を発掘することをねらいとし、育成委員会、各都道府県協会と連携を図りながら発掘したタレント候補生の育成環境の整備を進める。

#### 【実施計画】

- 1) JRSP 第2ステージ測定会(JRSP、7～9月)
- 2) JRSP 第3ステージ合宿(JRSP、11月)
- 3) JRSP 拠点県合宿(JRSP、12月、1月)
- 4) NTIDトライアウト(NTID、11月)
- 5) JRSP・NTID 合同会議(年間)



## 《ナショナルトレーニングシステム(以下、NTS)委員会》

### 【基本方針】

『選手の早期発掘・早期育成』、『優秀指導者養成』、『一貫指導システム』を柱として、将来に渡るハンドボール選手の個人技能・能力のレベルアップを図り、世界に通じる選手としてのスキル教育と人間力を育成するとともに、優秀指導者の指導力研鑽を同時に行う。

### 【実施計画】

- 1) NTS 運営委員会(4月、11月)
- 2) NTS ブロックシミュレーション(5月、11月)
- 3) NTS ブロックトレーニング[ブロック委託事業](8月～9月)
- 4) NTS 検討委員会(8月)
- 5) NTS 内容策定委員会(4、10、2月)
- 6) NTS センタートレーニング(1月)
- 7) NTS 関連(年間)

## 《アカデミー委員会》

### 【基本方針】

NTS によって選抜された優秀な選手を対象に、専門的で高度な個人技能・能力の育成を図る。日本はもとより海外においても活躍できるような国際感覚や教養を身につける。加えて、NTS 選考選手以外から特化プログラム(長身選手、左利き、GKなど)を組み、特殊な能力・ポジションを有する人材の発掘育成も実施する。

### 【実施計画】

- 1) ナショナルトレーニングアカデミー(4、6、9、12月)
- 2) ナショナルトレーニングアカデミー<特化プログラム>(2月)
- 3) ナショナルトレーニングアカデミー<海外遠征>(8月)
- 4) U-16 育成合宿(9、10月)
- 5) U-16 日韓交流事業(派遣:9月、受入:10月、期間・場所は調整中)
- 6) 大会視察等(年間)

## 《キャラバン委員会》

### 【基本方針】

選手・指導者の中央への招集に留まらず、地方へ指導者を派遣することによって、多くの指導者並びに保護者に対して、技術や体力・栄養に関する最新知識を伝達する。

### 【実施計画】

- 1) ナショナルトレーニングキャラバン(9、11、2月)

## 《ライジング委員会》

### 【基本方針】

JRSP において、2024・2028 に活躍が期待される将来性豊かなタレントを発掘育成すること、ならびに NTID トライアウトにおいて、形態的に優れた即戦力タレント候補を発掘することをねらいとし、育成委員会、各都道府県協会と連携を図りながら発掘したタレント候補生の育成環境の整備を進める。

### 【実施計画】

- 1) 全国各ブロックで開催される第2ステージ測定会(7～9月)における参加者の評価および測定会運営補助。
- 2) 第3ステージ合宿(11月～)において選考したタレント候補生の検証および合宿の企画運営。
- 3) タレント候補生が居住する都道府県協会と連携し、育成環境のヒアリングを行う。
- 4) 全国各ブロックにタレント候補生の受け入れ協力校を募り、発掘→育成のパスウェイを築く試みを行う。
- 5) JSC 主催の NTID トライアウトにおける参加者の評価。
- 6) NTID に関するワーキンググループに参加し、最新のタレント発掘事業の動向や他競技のタレント発掘に関する知見を収集する。
- 7) タレント候補生の検証方法について検討する。
- 8) タレント候補生が居住する都道府県協会と連携し、育成環境のヒアリングを行う。

## 指導普及本部が関わるその他の活動

### ◆ IHF コーチシンポジウムプロジェクト

2019年12月の熊本女子世界選手権において、世界中のコーチが集うシンポジウムを開催。

2019年1月開催のドイツ・デンマーク男子世界選手権において、山田永子特別委員が開催に掛かる費用的・人材的経費を調査。これを基に計画立案予定。

### ◆ ビーチハンドボールプロジェクト

2020年東京オリンピックにてデモンストレーションが行われるビーチハンドボール競技が、2024年パリオリンピック、2028年ロスオリンピックで正式競技になるかどうかを調査し、それに向けた体制構築を図り、国内組織の整備と国際大会への準備を進める。

### 3. 競技運営に関する事業

#### 【基本方針(目標)】

- 1) 各カテゴリー、全国・地域別の各大会における円滑な競技運営のための連盟・ブロック間の連携強化と競技役員(マッチオフィシャル(以下、MO)・テクニカルデレゲート(以下、TD))の質の向上
- 2) 世界選手権・オリンピック競技役員(以下、NTO)の養成
- 3) すべての選手・役員登録推進と登録システムの利用の推進
- 4) 競技関係の規程・細則・通知など見直し

#### 【目標達成のための具体的な行動】

- 1) 各カテゴリー、全国・地域別の各大会における円滑な競技運営のための連盟・ブロック間の連携強化と競技役員(MO・TD)の質の向上  
⇒ 競技運営連絡協議会を年3回、専門委員会を2回開催することによって、各ブロック・連盟との連絡強化を、また各連盟・ブロックと連携協力して、MO・TDの任務の見直し及び審判委員会と協働しての全国レベルでの競技役員研修会の実施、各連盟、ブロック協会での研修会においても実施する。また、研修会実施のための、指導資料、競技運営マニュアル、大会運営マニュアルの作成、配布を行う。
- 2) 世界選手権・NTOの養成  
⇒ 競技本部としてNTOの養成をおりひめトレーニングおよびJAPAN CUP(男女)、日本選手権(男子)の各大会を通じて、養成および実践練習を実施する。
- 3) 登録推進のための登録規程の見直しと登録啓発活動の実施  
⇒ 4月・5月登録に合わせて、大陸間移籍、国体登録、審判員登録など前年度の課題をまとめ、各県協会に登録啓発活動を行う。
- 4) 競技関係の規程・細則・通知など見直し  
⇒ 競技関係の旧式となった規程・催告・通知の見直しを行い、最新の情報を公開する。

#### 【実行計画】

- 1) 競技運営マニュアル、MO・TDの任務の見直し、競技役員育成資料など各種マニュアルの作成
  - (ア) 4月に公開できるよう資料収集(審判合同委員会・運営協会議会開催)
  - (イ) 4月までに作成、公開
  - (ウ) 4月・6月の審判長会議、全国審判研修会等で研修の実施
- 2) NTOの養成
  - (ア) 6月おりひめトレーニング(熊本予定)3泊4日の実践トレーニング
  - (イ) 6月日韓戦、ジャパンカップ(東京)3日間での実践トレーニング
  - (ウ) 11月オリンピックテストイベント(日本選手権とJAPAN CUP)実践トレーニング
- 3) 登録推進のための登録規程の見直しと登録啓発活動の実施
  - (ア) 競技運営連絡協議会の開催と協議(3回)
  - (イ) 各種問題点と解決策のまとめ
  - (ウ) まとめの通知(公開)

- 4) 競技関係の規程・細則・通知など見直し
  - (ア) 旧競技関係規程・細則・通知の洗い出し ※競技運営連絡協議会にて実施
  - (イ) 課題のまとめと見直し
  - (ウ) 新しい規程・細則・通知の再通知(公開)
- 5) その他の検討事項
  - (ア) 検定業者懇談会(3月)
  - (イ) ゴールポストIHFシール取得支援
  - (ウ) 日本選手権の日程他・実施携帯の見直し

#### 4. 審判に関する事業

##### 【実施方針および実施計画】

- 1) 組織の改編・改善と指導体系の強化
  - (ア) 審判委員会組織における各専門委員会の充実と機能的なワーキンググループの編成
  - (イ) ブロック審判長ならびに都府県(北海道各地区)審判長の指導力向上と、指導体系の強化
  - (ウ) 上級審判審査会の機会拡大に伴う、審査員の増員
- 2) レフェリーの発掘と効果的な育成
  - (ア) レフェリーアカデミー・レフェリーコース・上級審査会・各連盟と連携した発掘・育成
  - (イ) 女性レフェリーの発掘・育成(全体の20%、A級10%、並びに各ブロックより全日本大会担当の女性レフェリーの選出と配当を積極的に行う)、中長期的には、レフェリー登録者全体の女性レフェリーの割合を30%とすることを目標とする。
  - (ウ) ビーチハンドボールレフェリーの発掘と育成
- 3) 競技規則と適切な競技運営の徹底
  - (ア) 各地講習会および全日本大会における指導内容の統一
  - (イ) レフェリーハンドブック2019、レフェリー指導マニュアル(仮称)の企画・作成
  - (ウ) 強化・育成戦略委員会における、競技・審判と強化および指導・普及委員会との連携
- 4) 国際基準に沿ったトップレフェリーの強化
  - (ア) トップゲームにおける国際基準の判定を徹底させるため、技術・情報の分析および迅速な伝達
  - (イ) 国際審判員およびその候補者、および日本協会指名レフェリーに対する教育プログラムの構築
- 5) 2019年・2020年、更にその後を見据えたレフェリーの育成
  - (ア) 最新の国際情報の提供
  - (イ) レフェリーの海外研修派遣を実施

## 5. 強化・育成・競技・審判に関する事業

《強化・育成戦略委員会》

### 【基本方針】

強化・指導普及・発掘育成・審判等からの情報を共有し、日本ハンドボールのレベルアップを図るための強化・育成の指針を提示する。

### 【実施計画】

- 1) 強化・育成戦略委員会は、日本ハンドボールのレベルアップを図るために、これからの強化・育成に関する情報や方向性を共有し、強化・育成の指針を提示することを目的とする。
- 2) 本会議の構成員を、議長(専務理事)、統括、強化本部長(強化担当)、指導普及本部長(育成担当)、強化委員長、情報科学委員長、体力科学委員長、JOC 専任コーチ、NTS 委員長、アカデミー委員長、キャラバン委員長、指導委員長、普及委員長、育成委員長、発掘委員長、競技本部長、審判部長とし、必要に応じてアドバイザーや実務担当者を招聘する。
- 3) 本会議に作業部会を設置する。現在は、すでに進行している「テクニカルチーム」「日程調整ワーキンググループ」があり、必要に応じて追加編成する。
- 4) 2019 年度提案の強化・育成指針の進捗状況(達成度)をチェックする。
- 5) 四半期ごと(6 月、9 月、12 月、3 月)にチェック、および進度に応じた修正を行う
- 6) 具体的な実施内容は以下の通りとする。
  - (ア) 強化:各カテゴリーの国際大会の評価(stats 分析と戦い方)と強化指針との整合性をチェックする。
  - (イ) 指導・普及・育成:各カテゴリーの国際大会の評価(技術・戦術の質的分析)と育成指針との整合性をチェックする。また、国内での指導指針の実施度をチェックする。
  - (ウ) NTS:指導内容策定とその実施度をチェックする。
  - (エ) アカデミー:指導内容策定とその実施度をチェックする。
  - (オ) キャラバン:指導内容策定とその実施度をチェックする。
  - (カ) ライジング:指導内容策定とその実施度をチェックする。
  - (キ) 競技:国内大会の日程調整や大会開催、用具等に関するチェックを行う。
  - (ク) 審判:指導指針に即した審判評価を行う。
- 7) 2020 年度に向けた強化・育成指針の検討と作成を行う。

## 6. 国際に関する事業

### 【基本方針および実施計画】

- 1) IHF、AHF、EAHF 等との連携および関係強化による国際力向上
- 2) 各国 NF との連携及び関係強化による強化環境・指導普及環境の強化
- 3) 2019 女子世界選手権の機会を活用した、東京 2020 へ向けた国際渉外関連事項の強化
- 4) 国際的手続き等のルーティーンの停滞なき実施及び環境強化
- 5) 国際人材の養成と組織基盤強化
- 6) 国際貢献への取り組み  
⇒ ハンドボールの力で世界を変える、スポーツ・フォー・トゥモロー等を活用した国際交流

## 7. 事業企画に関する事業

### 【基本方針】

- 1) 東京 2020 に向けた国内開催の国際試合の展開
- 2) 日本協会主催大会の変革  
⇒ 「競技会」から「エンターテイメント」へ（顧客満足度の向上、事業収支の改善）  
「ハンドボールフィーバー」の創出

### 【実施計画】

- 6 月 JAPAN CUP2019(男子ナショナル)
- 6 月 日韓定期戦(男女ナショナル)
- 11 月 日本選手権(男子の部) / JAPAN CUP2019(女子ナショナル、東京 2020 テストイベント)
- 12 月 日本選手権(女子の部)

## 8. 総務に関する事業

### 【基本方針】

- 1) JHA と加盟団体とのコミュニケーションの促進  
加盟団体との連携強化、JHA・加盟団体が果たすべき役割の明確化、情報の共有。
- 2) 公益財団法人としての透明性の確保  
ガバナンスの確立、コンプライアンス強化をはじめとする組織の厳格な運営、適切な情報開示。
- 3) 適正且つ円滑な事業執行と進捗を図り、業務の効率化を図る
- 4) 将来の日本協会の発展を見据えた若手役員候補の人材育成および環境の整備

### 【実行計画】

- 1) 加盟団体とのコミュニケーション強化と建設的な意見交換の場の創出

- 2) ガバナンスを支える規程の整備と高度化
- 3) 効率的な業務運営のために必要な業務の洗い出し  
⇒ RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)導入による業務効率化
- 4) 将来を見据えた有望な人材の発掘活動の継続
- 5) 「戦略企画委員会(仮称)」の立ち上げ  
⇒ 「ハンドボール×ビジネス」「ハンドボール×テクノロジー」「ハンドボール×エンターテイメント」を推進するための委員会を設立  
(若手人材の抜擢と、兼業・副業による外部上級人材の招聘を検討)

## 9. 財務に関する事業

### 【基本方針】

- 1) ポスト 2020 を見据えた財源の確保  
3～4 年先を見据えた財務計画を「中期計画」に盛り込み、各年度の事業計画及び予算に連動させて進捗を管理。
- 2) 予実管理の徹底  
支払/請求と帳簿処理のサイクルを早め、予実管理の「見える化」を推進。
- 3) 資金繰りの改善  
2019 女子世界選手権等の大型出費もあり、外部資金調達の可能性を意識した計画的かつ能動的な資金繰りの把握を励行。

### 【実行計画】

- 1) 「ハンドボールでんき」等の新たな財源確保の模索。
- 2) 支出伺い書等の予算執行に関する書式を改定し、予算を意識した事業活動の定着化を図る。
- 3) 銀行借入導入の検討

## 10. スポーツ・インテグリティの強化

### 【基本方針】

クリーンでフェアなスポーツの推進のため、ハンドボール界全体でインテグリティ強化に取り組む。

- 1) ガバナンスの強化
- 2) コンプライアンス徹底
- 3) アンチ・ドーピングの取組強化

### 【実行計画】

- 1) 規程類の整備および実効性の検証  
規程間の整合性を検証し、体系的な整備を進めるとともに、加盟団体を含めた定着化に努める。

- 2) 暴力・ハラスメント事案への適切な対応  
コンプライアンス委員会の機能強化と、加盟団体との連携体制の構築。
- 3) アンチ・ドーピングのアウトリーチ活動の強化  
医事専門委員会と連携して、全国規模の大会や全国理事長会等を通じた競技者・加盟団体役員へのアンチ・ドーピングの啓発活動の実施。

## 11. 広報に関する事業

### 【基本方針と実施事項】

- 1) ハンドボールの価値を高めるための広報部門の組織改編
  - ⇒ 外部の若手有識者を交えた広報戦略策定組織(広報委員会)の組成
    - ＝ハンドボールの価値向上
    - ＝戦略的な情報発信のための手段、内容の見直しと改善
  - ⇒ 事務局内の広報スタッフの拡充
    - ＝最低1名のフルタイムスタッフを加え、2名体制に
    - ＝情報共有、報告の体系整理
- 2) マスコミ、ファン(SNS、HP)に対する情報提供の質・量の向上
  - ⇒ 情報の精度、速度、質、量の向上
    - ＝情報提供部門(事業・強化など)の協力が必須
    - ＝IHF、AHFからの情報提供ルートの構築
    - ＝情報提供プロセスの簡略化
    - ＝アーカイブ作成(国別対戦、個人成績、写真、VTR)
- 3) JAPAN CUP など、2019 年度競技大会に関する広報活動の充実
  - ⇒ 情報提供、交換、窓口の一本化
    - ＝競技予定・結果、チケット情報、選手情報(対戦相手も含めて)
  - ⇒ 情報の精度、速度、質、量の向上 = 情報提供部門(事業・強化など)の協力が必須
    - ＝インターネット中継の準備、手配
  - ⇒ 2019 年 11 月 JAPAN CUP/日本選手権
    - ＝東京オリンピック大会を想定したシミュレーション
    - ＝東京 2020 組織委員会との役割分担
  - ⇒ 2019 年 12 月 女子世界選手権
    - ＝熊本組織委員会との十分な事前打合せ、シミュレーション
    - ＝期間中の情報収集、発信体制の確立
- 4) 映像、画像に関する諸課題の適切な処理
  - ＝TV ニュース、特番、映画などの取材手配
  - ＝各競技大会における映像確保
  - ＝著作権処理とアーカイブ処理、肖像権管理収入
  - ＝2019 女子世界選手権の TV 映像配給と制作の確認



## 12. マーケティングに関する事業

### 【基本方針と実施事項】

- 1) マーケティング事業収入予算の達成
  - ⇒ 2018 年度予算 1 億 4,000 万円(実績推定 1 億 5,000 万円)
  - 2019 年度予算 1 億 7,100 万円
- 2) ポスト 2020 を見据えたマーケティング部門の組織改編
  - ⇒ 外部の若手有識者を交えたマーケティング戦略策定組織(マーケティング委員会)の組成
    - ＝ハンドボールのマーケティング価値向上
    - ＝協賛パッケージの見直しと開発
    - ＝ユニフォームロゴなどの協賛価格の定額化
    - ＝人材育成
  - ⇒ 事務局内のマーケティング担当者の強化
    - ＝最低 1 名のフルタイムスタッフを加え、2 名体制に
    - ＝ソリューション営業への転換
    - ＝情報共有、報告の体系整理
- 3) ポスト 2020 を見据えた既存協賛社の満足度向上
  - ⇒ 既存協賛社の満足度の向上
    - ＝契約内容の順守、露出機会の増加
    - ＝その他の諸要求に対する迅速かつ柔軟な対応
    - ＝協賛契約書の整理
- 4) 2019 年度競技大会ごとの協賛セールスでの収入増加
  - ⇒ JAPAN CUP、日本選手権などの早急なセールス(2019 年 3 月までに)
    - ＝情報提供部門(事業・強化など)の協力が必須
  - ⇒ 2019 年 12 月 女子世界選手権
    - ＝IHF 基本協賛セールス＋少額のセールスパッケージの開発
    - ＝熊本組織委員会との協力体制の確認
- 5) 既存のユニフォーム上衣前面に頼らない協賛商品の開発
  - ⇒ ユニフォーム上衣前面での JHA 協賛収入の伸びは期待できない
    - ＝練習着、スタッフウェア
    - ＝レプリカ、グッズ販売の検討

## 13. アスリート支援に関する事業

### 【基本方針および実施事項】

- 1) 委員会始動させ、新委員会としての機能を明確にしなが、JOC や他 NF との連携体制を整える。
- 2) 組織体制作りと今後の課題の検討

## 14. 日本リーグに関する事業

### 【基本方針】

- 1) 2019年女子世界選手権、2020東京オリンピックを意識して“強い日本ハンドボール”を目指す。
- 2) 法人化を目指し、所属チームの集合体であるリーグの発展につなげる。
- 3) 企業チームとクラブチームの共存のリーグの在り方を見出す。
- 4) リーグ機構の基盤強化と人材育成に取り組む。
- 5) ガバナンスの強化及びスポーツ・インテグリティ(スポーツにおける誠実性・健全性・高潔性)を守る取り組みを実施する。

### 【実施計画】

中期計画に則り、女子世界選手権、東京オリンピックを見据えながら、計画達成に向けて各事業を推進する。

- 1) 法人格の取得に向けて、各関係との連携を密にする
- 2) 強化拠点であることを認識し、日本協会強化部との連携を密にし、スケジュールを立てる。
- 3) 男子10チームによる3回戦制、女子9チームによる2回戦制の円滑な運営を実施。
- 4) チーム数を増やすと共に運営方法の検討を実施。
- 5) 選手のみならず、トップコーチ、レフェリー、TD、JHL オフィシャル、開催地責任者の人材の育成に取り組み、各研修会を実施。
- 6) ガバナンスの強化に取り組み、スポーツ・インテグリティを推進する。

## 15. 2019 女子世界選手権プロジェクト

### 【基本方針】

- 1) 熊本女子世界選手権で 新しい日本を アジア、世界に発信
- 2) 大会キャッチフレーズ「ハンド イン ハンド 1つのボールが地球を結ぶ」
- 3) 基本理念  
①誰もが楽しめる大会、②女性が活躍する大会、③環境に配慮した大会、④日本(熊本)らしい大会

### 【実施計画】

- 1) 直前までの気運醸成、万全な大会準備  
6月 最後のプレ大会としての「おりひめトライアルゲームズ」  
6月 ドローイベント(銀座・能楽堂)/レセプションを通じた全国、全世界への発信
- 2) 円滑な大会運営と東京2020に繋がるファン作り「ハンドボールフィーバー」の創出
- 3) 協会スポンサーと連携したプロモーション活動